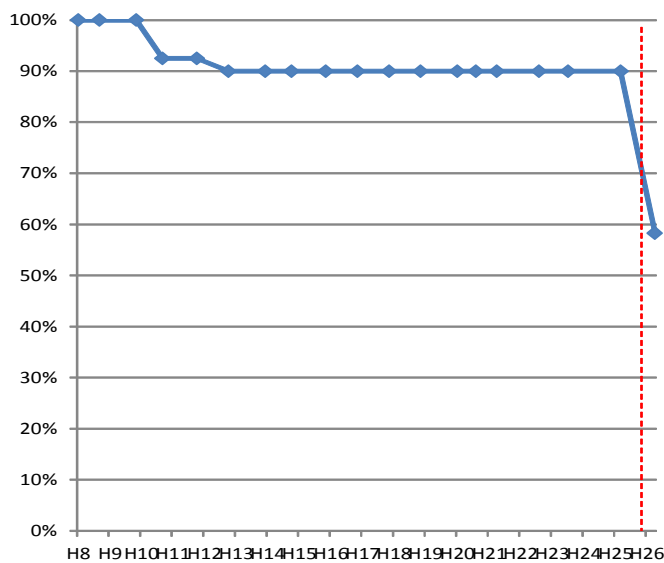


樹種名	ウラジロガシ	
科 目	ブナ科	
学 名	<i>Quercus salicina</i>	
分 布	宮城県・新潟県以南から四国、九州、琉球列島に分布する。肥沃適湿な土地を好むが土壌層の薄いところでも生育できるため尾根筋・急傾斜地にも自生する。	
樹木特性	半陰樹であり山地斜面や下部の谷沿いに多い。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約 30 cm 前後で萌芽本数は 10 本程度である。さらに、萌芽発生が見込まれる最大の切り株直径は約 40 ～ 50 cm 程度である。	
用 途	材は非常に堅く柾目に虎班、板目に柃目模様があって美しい。公園樹・建築・器具・楽器材。葉は生薬（胆石・腎臓結石）。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	72 本 / 0.02ha (3,000 本 / ha)	
特 徴	【樹 形】 常緑高木で 20m 以上に達する。樹皮は暗褐色から灰色で、滑らか。葉は互生し、倒卵状～楕円状長楕円形、長さ 5～13cm、鋭尖頭で、葉縁に鋸歯を持つ。アラカシなどに比べて、鋸歯が鋭くとがるのが特徴。 雌雄同株。花は穂状で 5 月から 6 月頃に咲き、雄花序は新枝の基部から下垂し、長さ 4cm 前後、褐色の軟毛を密生する。雌花序は新枝の上部の葉腋（ようえき【葉が茎と接している部分】）に付き、長さ 7mm 前後である。 堅果（どんぐり）は広卵状楕円形-長楕円形、長さ 2cm 前後で他種よりも比較的細長い、色は濃褐色。 人家の生け垣や社寺林に植えられる。 葉の裏面ははじめ黄褐色の絹毛を密生するが、のちには蠟質を分泌し雪白色となる。	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後からコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害による枯死が発生した。18 年経過した現在の平均樹高は 10m 程度まで成長している。	
被 害	植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数：14 本)	

ウラジログシ 現存率



【現存率】

植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害により枯死が発生した。

平成 10 年度以降の枯死は見られない。

林内の照度調整のため平成 18 年、20 年、21 年、24 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 58.3%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

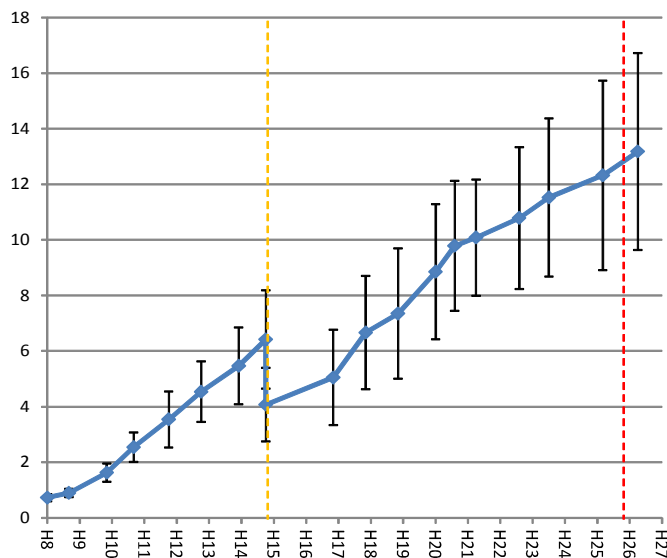
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 13.18 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

ウラジログシ 根元・胸高直径



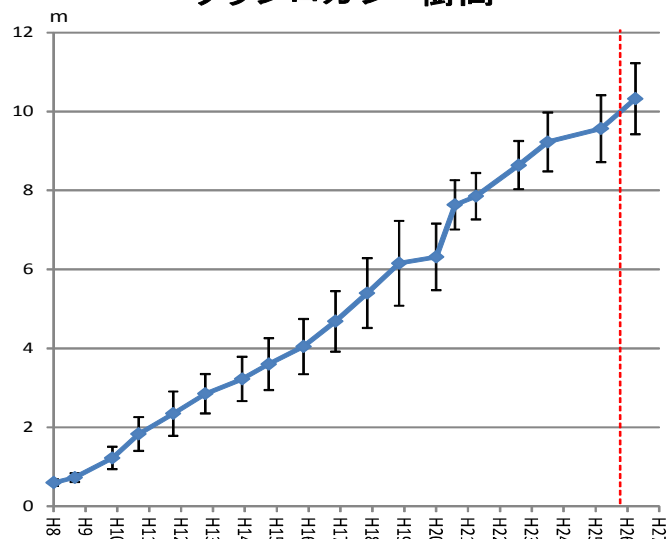
【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 10.32m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

ウラジログシ 樹高



《プチ情報》

葉を乾燥してお茶にして飲むと胆石や腎臓結石を溶かすという触れ込みで商品化されているとの情報もある。また、エキ스는胆石・腎臓結石排出促進作用が確認され、医薬品としても流通しているとの情報もある。また、ウラジログシを入浴剤として使用すると、切り傷・やけど・にきび等の肌荒れ・痔等に効果があるとも云われている。

葉の裏面に粉白色を呈す（これが和名の由来である）。